

1967

『物語・北海道文学盛衰史』
(河出書房)

本書は多くの貴重な
新事実と、新しい考察を
提出して、
重要な文献となる
ものと思われる。
序文(伊藤整)より

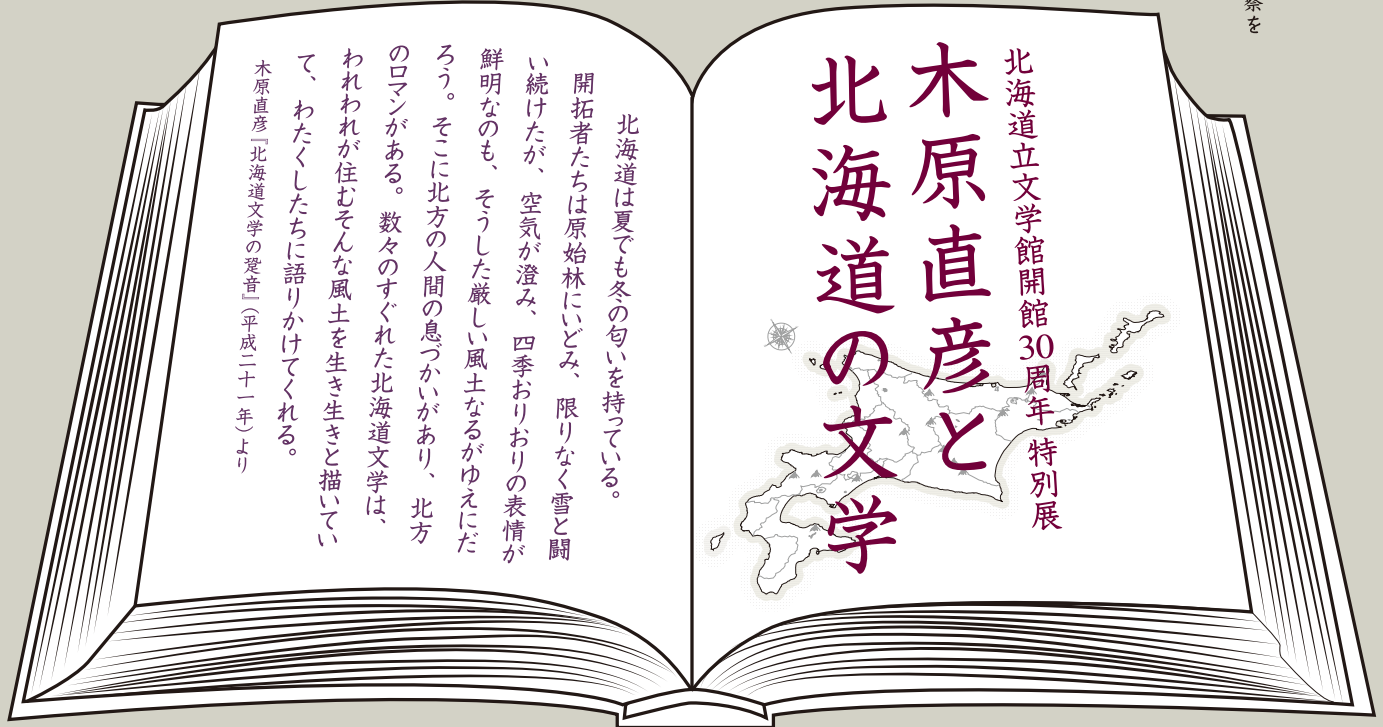


2009

木原直彦
『北海道文学の^{おし}発音』
(中西出版)



読物として、
資料として、評論として
(北海道文学)の発音を聴いて
いただければ望外の幸である。
あとがき(木原直彦)より



2025年2月1日(土)~3月23日(日)

開館時間：9時30分~17時(入場は16時30分まで)

休館日：月曜休館 ただし、2月24日は開館し、2月25日(火)は休館

観覧料：一般 500 (400)円 高大生 250 (200)円 中学生以下・65歳以上無料
()内は10名以上の団体

学校の教育活動の一環として観覧する高校生等と引率教員、土曜日の高校生等、
身体障害者手帳等をお持ちの方と引率者、児童・老人福祉施設に入所している方とその引率者、
生活保護を受けている方は無料となります。詳細は文学館にお問い合わせください。

主催：北海道立文学館、
公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社
後援：札幌市、札幌市教育委員会

中島公園

北海道立文学館 特別展示室

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号 Tel. 011-511-7655

<https://www.h-bungaku.or.jp/>



1966

『北海道文学展』
図録



北海道文学史上の
画期的こととして、
一九六六(昭和四二)年秋の
「北海道文学展」
の大きな成功がある。*



同人雑誌全盛の
さ中に原田康子の
「挽歌」(一九五六年)が
アツという間に全国を席巻し、
戦後第一期の
観光ブームをもたらした。*

1956

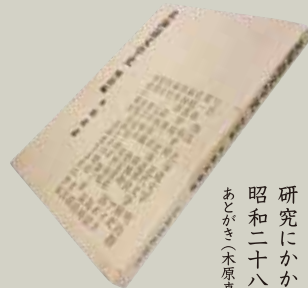
原田康子
『挽歌』
(東都書房)



1966

北海道文学展でテープカットする伊藤整
(中央)と更科源蔵(右)。
司会・木原直彦(後列右端)

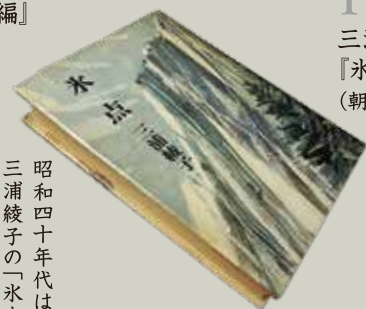
*は木原直彦「北海道文学の発音」より



1975

木原直彦
『北海道文学史 明治編』
(北海道新聞社)

さしたる自覚もなく
北海道文学の
研究にかかわったのは、
昭和二十八年からであった。
あとがき(木原直彦)より



昭和四十年代は
三浦綾子の「氷点」で
幕を開けた。*

1965

三浦綾子
『氷点』
(朝日新聞社)